

令和8年度病虫害発生予報第1号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病	並	並
	赤かび病	並	やや多
ばれいしょ	疫病 (防除情報第1号)	並	やや多
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ジャガイモガ	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	やや多
	灰色かび病	並	やや多
	コナジラミ類	並	やや多
いちご (本圃)	灰色かび病	並	やや多
	ハダニ類	やや少	並
	アザミウマ類	並	並
果樹共通	カメムシ類	並	やや多
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	少	少

【発生予報】

本文の()内は平年値

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 4月前期の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(大麦 発生を認めない、小麦 発病莖率0.0%、発生圃場率0.8%)。
- イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(大麦 発生を認めない、小麦 過去10か年平均 5.5%)。

2. 赤かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 4月前期の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、大麦、小麦で発生を認めなかった(大麦 発生を認めない、小麦 過去10か年平均 発病穂率0.0%、発生圃場率1.3%)。
- イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、大麦、小麦で発生を認めなかった(大麦 過去10か年平均 0.1%、小麦 発生を認めない)。
- ウ 感染時期(小麦：開花期、大麦：蒴殻抽出期)に感染に好適な気象条件で推移した。
- エ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 小麦では、開花の最も盛んな時期（出穂期の概ね7日後）と、その10～20日後に2回目の防除を行う。
- イ 出穂期は、播種時期や圃場条件、今後の気象等によって異なるため、必ず圃場ごとの生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。
- ウ 薬剤の種類によっては、麦種ごとに農薬使用基準が異なる場合があるので、使用にあたっては使用時期及び使用回数に特に注意する。

ばれいしょ

1. 疫病

令和8年4月15日付け**病害虫発生予察防除情報第1号**による。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査（24筆）の結果、寄生株率は7.1%（5.0%）、発生圃場率は54.2%（39.1%）であった。

イ 黄色水盤トラップ（雲仙市：中山間営農研究室調査）では、トラップ設置（3月上旬）から有翅虫の誘殺が確認されており、平年（過去5か年平均）並で推移している。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和8年長崎県病害虫防除基準P71～72の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

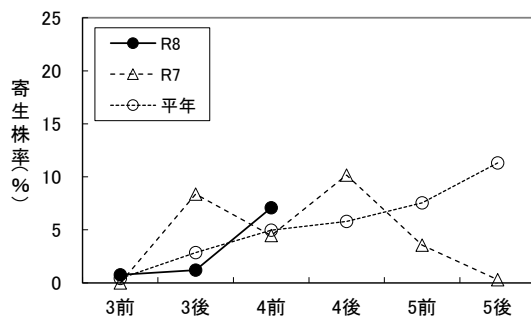


図 ばれいしょアブラムシ類寄生株率の推移

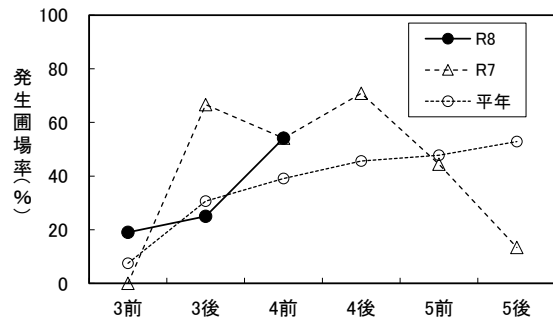


図 ばれいしょアブラムシ類発生圃場率の推移

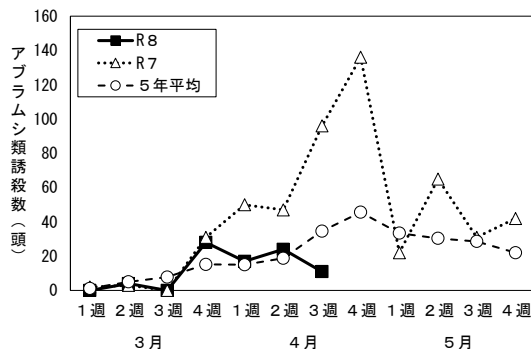


図 黄色水盤トラップの有翅虫誘殺結果（雲仙市愛野町 中山間営農研究室）

3. ジャガイモガ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
4月前期の巡回調査（24筆）の結果、被害株率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は4.2%（2.1%）であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

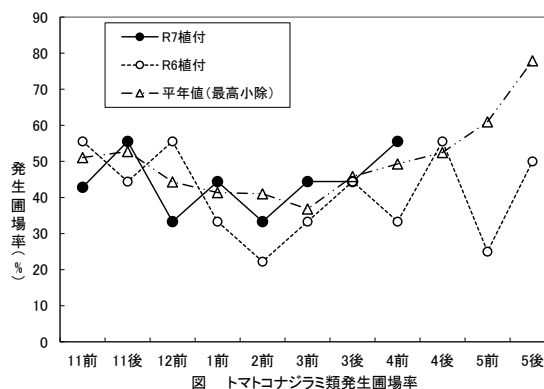
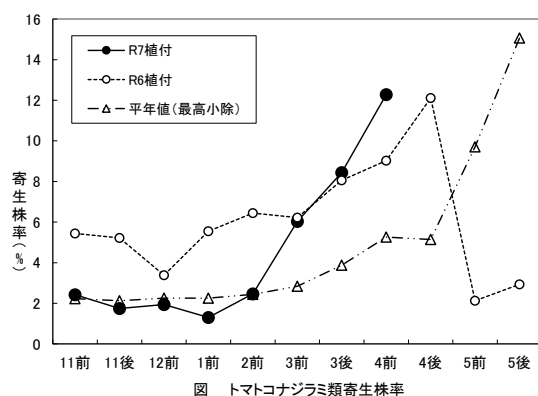
- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 4月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は7.8%（0.5%）、発生圃場率は11.1%（22.5%）で一部多発圃場が見られた。
 - イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の媒介虫であるタバココナジラミの発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する（タバココナジラミの項参照）。

2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 4月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病果の発生は見られなかった（発病果率0.1%、発生圃場率16.0%）。
発病葉率は2.1%（0.7%）、発生圃場率は33.3%（26.4%）であった。
 - イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 하우스内が多湿にならないよう曇雨天時でもできるだけ換気を行う。
 - イ 発病果、発病葉は伝染源となるので早急に除去し、ハウス外に持ち出し適正に処分する。
 - ウ 多発後の薬剤防除は効果が劣るので予防的な防除に努める。
 - エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和8年長崎県病害虫防除基準P166～168の「作用機構による分類（FRAC）」参照）を連用しない。

3. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 4月前期の巡回調査（9筆）の結果、寄生葉率は12.3%（5.3%）、発生圃場率は55.6%（49.3%）であった。一部多発圃場が見られた。
 - イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、作付け終了までの施設内の防除対策を徹底する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和8年長崎県病害虫防除基準P169～170の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
- ウ 本虫は葉裏に多く寄生しているので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。
- エ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。
- オ 施設内および周辺の雑草は生息・増殖場所となるので除草する。

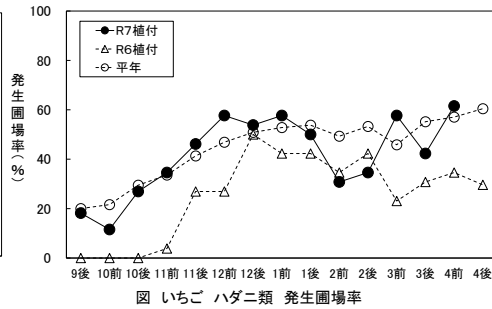
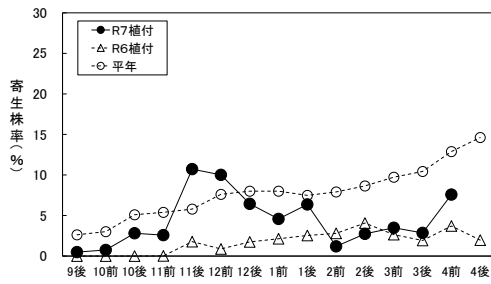
いちご

1. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 4月前期の巡回調査（26筆）の結果、発病果率は0.1%（0.2%）、発生圃場率は42.3%（19.8%）であった。
 - イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア ハウス内が多湿にならないよう曇雨天時でもできるだけ換気を行う。
 - イ 発病果等の発病部位は伝染源となるので早急に除去し、ハウス外に持ち出し適正に処分する。
 - ウ 多発後の薬剤防除は効果が劣るので予防的な防除に努める。
 - エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和8年長崎県病害虫防除基準P183～185の「作用機構による分類（FRAC）」参照）を連用しない。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 4月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は7.6%（12.9%）、発生圃場率は61.5%（57.1%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



(3) 防除上注意すべき事項

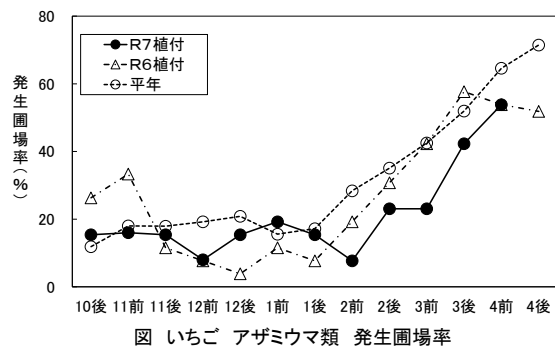
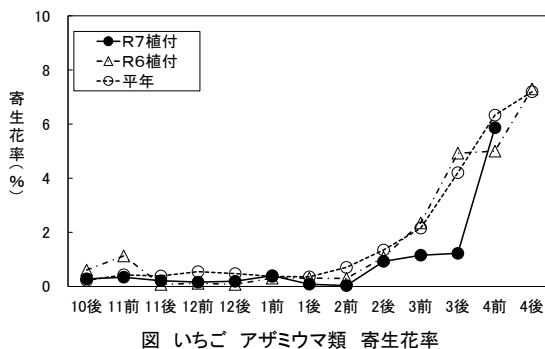
- ア 本虫は下葉の裏に多く寄生するので、薬液が下葉の裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和8年長崎県病害虫防除基準 P186～187の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- ウ 天敵を導入している圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を散布する。ただし、ハダニが多発し、天敵による防除効果が期待できない場合は、天敵への影響は考慮せず効果の高い薬剤を散布する。

3. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 4月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生花率は5.9%（6.3%）、発生圃場率は53.8%（64.6%）であった。
- イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発生が多くなってからの防除は困難であるので、早期発見・早期防除に努める。
- イ 本虫は薬剤が到達しにくい蕾や花、がく等に寄生しているため、丁寧に薬剤散布を行い薬液がかかるようにする。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和8年長崎県病害虫防除基準 P186～187の「作用機構による分類（IRAC）」参照）を連用しない。
- エ ミツバチへの影響日数を確認してから薬剤選定、散布を行う。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア びわにおける4月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生圃場率は10.0%であった（過去10年平均 寄生果房率0.3%、発生圃場率1.0%）。
- イ フェロモントラップによる調査の結果、諫早市（県予察圃場）で4月1半

旬に初誘殺を確認した。

ウ 令和8年2月に実施した県内16地点の常緑広葉樹林下落葉中における越冬量調査の結果、チャバネアオカメムシ成虫の越冬量は0.75頭/m²と平年の0.32頭/m²よりやや多く、一部、多い地点も見られた（令和8年3月18日付け病虫害発生予察防除情報第8号を参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスみかん、びわ、なし、もも、うめ等の品目では特に飛来に注意し、飛来を認めたら早急に防除を行う。

イ カメムシ類の果樹園への飛来時期及び飛来数は地域や園によって異なるので、今後の予察情報や病虫害防除所ホームページ（下記参照）に掲載する果樹カメムシ類の発生推移を参考に、各園地での発生動向に注意する。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は4.7%（1.0%）、発生圃場率は50.0%（24.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和8年長崎県病虫害防除基準P355～356の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（5回×4か所あたり、A4版トレイ）は0.1頭（1.6頭）、発生圃場率は8.3%（48.2%）であった。

【参考】

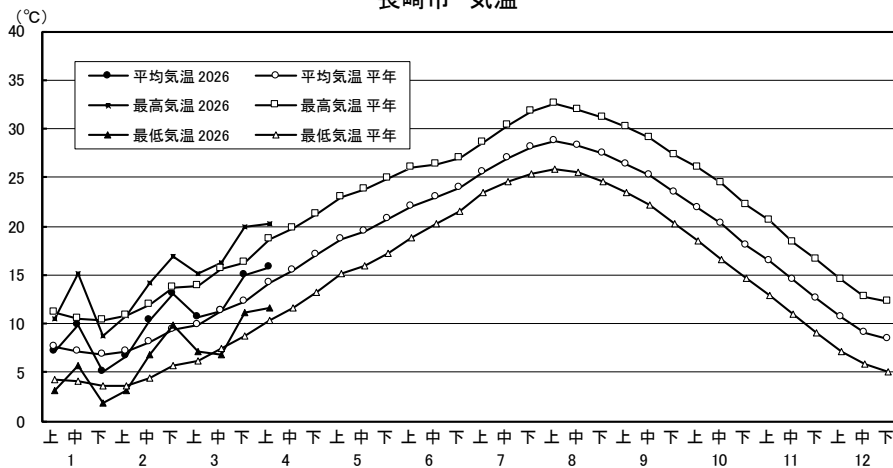
(令和8年4月9日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	10	80
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

令和8年の気象経過(長崎地方気象台)

長崎市 気温

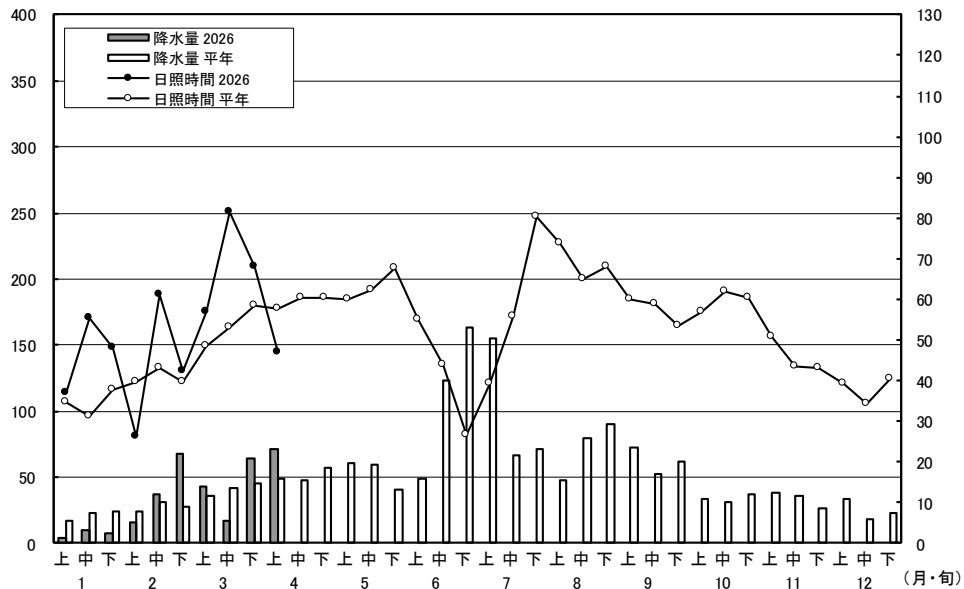


(月・旬)

(mm)

長崎市 降水量と日照時間

(hr)



(月・旬)

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

